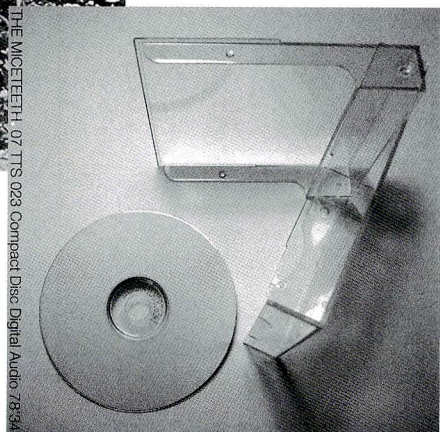


RELEASE

発売中



THE MICETEETH 07 TTS 028 Compact Disc Digital Audio 7834



「07」 / THE MICETEETH

関西をランチにすることで見えてくる、 自由度の高い、ポップミュージック。

音酒場の取材をしていて驚かされたのが、「中川酒店」がオープン早18年になるってこと。エディ中川オーナーと、京都におけるレゲエの受け止められ方ってどう変わってきたか…をちょこっと話したんだけど、そんなマナーよりも先にポップミュージックのポップさに対してどれだけ純になれるか…が、街場では大切なんだよな〜と、レッドストライプを飲みながら思った。

そんな気持ちとで見事にリンクするのが、マイスティーの新作「07」。大阪を拠点にしながら、こうも自由度

が高い音楽が作れるのかと感心するとともに、東京ではない絶妙なユルさとシビアさが、なんと全35曲となったのがこのアルバム。

スカあり、レゲエあり、カリブソあり…といってしまうえば簡単なんだが、そんなビートやリズム感が、堀江や御幸町をチャリで走っている気分にリンクしていく、不思議な感じがする。残念ながらライブは大阪のみ。しかも直近！ 急げ。

(袖岡保之／本誌)

- 「07」 / THE MICETEETH
- tentosen XNAE-10012 2990円(税込み) 発売中
- [LIVE]
- 2007.11.4 (SUN)
- 心斎橋クラブアトロ
- open17:00 start18:00
- 前売り3150円 / 当日3500円 (drink別)
- 問い合わせ 06-6882-1224 (グリーンズ)

街場

肩の力を抜いて、自由に語ろう…、
京の街と付き合うというこを。

の 演 算

袖岡保之

「第三回」
街の中には、
いい音がいっぱいある。
モニターから離れ、
街に出よう。

酒場特集なる物を、いつたい何冊手がけてきたのだろうか。

ただかだか20年弱の雑誌編集者のキャリアで何を言うという方もおられると思うが、街と添い寝をするように雑誌づくりをしてきた僕にとつて、酒場はネタ以上に意味を持つ。酒場は人と人を繋ぐメディアでもあり、言葉を重ねていく意味の集積回路として、監獄ばりに「戻りたくなくても戻ってしまう」、まさにクラインのツボである。

酒場には酒があるから出かけるのではない。なにか禅問答のようだが、僕にとつては酒以上に人や音との共振(または反抗)が、大きな意味を持っている(ように思う)。

それは決してサウンドバーみたいな、いかにもな店を言うのではない。堺町錦西入ルの「風景」のように居酒屋然とした店であつても、大将が趣味で貼っているジョン・レノンのポスターなんかにも客もビートを合わせてくるのはとても微笑ましいし、そういつた店は客の年齢層も自然と幅が出てくるから面白い。もちろん懐かし系の音が流れてはいるけれど、酒・飯・音の3拍子の店は、古くささを感じさせないというか、時代感覚のズレを感じさせないから不思議である。

もちろん木屋町四条下ルの「KAZABANA」(P.23)のように、大きなJBLでキモチイイほといい音を聴か



THE LEGEND FROM BLUESMAN FESTA ～塩次伸二CDリリース記念～

LIVE

11.21
(Wed)

なんやかんや言って京都のブルース… えらい面子が揃ってしまいました。

京都からウエストロード・ブルースバンドが出な
かったら…。なんかブルースの濃い～話に聞こえそ
うだが、彼らが考え、体感したブルースは、ロック
カルチャーを突き詰めていった先にある本物を見て
しまったら音楽としてそこにあった…ということで、
その究極が山岸潤史なのだろう。

では、対極は？ ニューオーリンズに行かず京都
に居る塩次伸二である。彼は山岸同様のトリックス
ターのスタンスで、日本の強者をその腕っ節で「い

なし」て、自らのブルースコードの上で躍らせる。
そんな彼の突き詰めた音が、ぎっしりと1枚のアル
バムに煮詰められた。しば漬けよりも濃く、山椒の
炊いたのよりもピリッと舌にくる。そんなブルース
フェスタが一夜かぎりのセッションとして「MOJO
WEST」で実現する。

妹尾隆一郎、西野やすし、小竹「TAKE」直、そして
有吉須美人。こんな顔ぶれ、最初で最後？
(袖岡保之/本誌)

LIVE ■2007.11.21 (Wed)

出演/塩次伸二、妹尾隆一郎、有吉須美人、田中晴之、山田晴三、西野やすし、小竹「TAKE」直、小林健治 ■MOJO WEST ■open18:30 start 19:30
■前売り3000/当日3500 ■問い合わせ 075-706-8869 (MOJO WEST)

RELEASE ■2007.11.21. ■「TOGETHER AGAIN~Blues in New Orleans」/June Ymanagishi & Shinji Shiotsugu

■Victor vicj-61534 3000円(税込) ■2007.12.5. ■「CAN'T STOP PLAYIN' THE BLUES」/塩次伸二
■MOJOレーベル XQCM1304 2940円(税込)

大風流2007

EVENT

11.17
(Sat)

続いてナンボ、の古都だから、 祭もやっぱり、「継続は底力」なり。

「風流」には「風雅」の意味もあるが、平安
末期から中世にかけての芸能でもある。

「大風流」の歴史を遡ると慶長年間。1604
年、豊田秀吉七回忌の祭礼にあわせて、京都の
市中を当時最先端の装束を身にまとった町衆が
歌い、舞い踊った大催事だったそうだ。

派手にご陽気に！ であるから、これはもう
祭と呼んで良いだろう。

今年は京都駅前広場にステージを組んだり、
京都タワーが特別に青くライトアップされた

り、「初モノ」企画も盛り込んでアップデート
している。

官民間わず、「新しい祭を！」とこれまで何
度も声が挙がるものの、結局当たり障りのない
内容に落ち着いた挙げ句に消えていく…を繰り返
返してきた京都である。それこそ、なまじ歴史
があるから、ということもあるのだろう。

今回で9回目、先の「京都学生祭典」もだが、
続けているのは立派だと思う。

(竹中 聡/本誌)



■「大風流2007」■京都駅前広場および京都タワー
■2007.11.17 (Sat) 14:00~20:00 ※11.4 (Sun)・11.10 (Sat)・11.11 (Sun) にプレイイベントあり
■問い合わせ 075-222-3800 (KYOTO青年元気まつり企画運営委員会) <http://www.daifuryu.net>

せてくれる(それも会話に全く不自由しない、いわばサイ
レントなサウンドで)店のご機嫌さは何ものにも代え難
い。店主の児島さんは「オーディオなんてお金かけだした
らキリがない」とおっしゃるが、そこそこ(といつてもた
いがいなのだが)のセンスのよさこそ京都の凄みだとい
うことは、こういった店が教えてくれる。逆説的になるが、
祇園の「フインランディア」のように、無音であることが
最高のBGMであり、そういった店で音楽好き同士が出
逢って結構盛り上がりたりするのが街場の面白さとい
うものなんだろう。

街はいい音でいっぱい

そんなオチかい…とわれわれそうだが、僕がつくってきた
雑誌のなかでも、気に入っている特集タイトルひとつだ。

まだDJをしていた頃の竹村延和や、今年はYMOの
バックメンバーで大活躍の高野寛、当時はUFOのメン
バーだった松浦俊夫なんかと関西のレコ店や音酒場を回
ってつくった懐かしい特集だが、その時に思ったのがオ
ーディオの前で腕組みして音楽聴いていても「結構好き
なんだが…」しかたがない、ということ。街場の店には何
かしらのビート感があって、現場でかかっている音楽と
は関係なしに、帰納的にさまざまな音楽が頭の中で鳴り
出す(酒で頭がおかしくなったんじゃないの?) と思っ
たあなたは、正しいかもしれませんとということ。

焼き肉屋ではなんとなくブルースが似合うし、沖縄音
楽を聴きながら飲む泡盛はなんやかんや言っても美味し
い。スペインバルはスムーズジャズじゃだめで、ブンチャ
カブンチャカいってないと気分がのらない…。そういう
感覚こそが何ものにも変えられない、街的なセンスとい
うものだ。

音を求めて、酒を楽しむに…街の中へでることは、決し
て絶望の淵をさまようことではない。さあ、モニターから
離れ、街に出よう！

袖岡保之/06年、京阪神エルマガジン社を離れ、フリーに。17年間離
れていた京都へ戻って京都CFIを中心に店ネタから人音、街コ
ラムを執筆。この7月には、三条堀川西入ル、三条会商店、街内に編
集プロダクション「THIS script」を設立。